

平成21年度

杉田玄白記念公立小浜病院改革プラン実績評価書

平成22年10月

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会

1. 点検・評価に至る経緯

病院改革プラン（以下、「改革プラン」という。）は、平成19年12月に総務省において策定された「公立病院改革ガイドライン」に沿って平成21年3月に策定され、その取り組み状況についての点検・評価を行う為、評価委員会が設置された。

「杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会」は、外部有識者、住民代表者等を含む5名の委員で構成され、平成21年度決算の状況を含め、改革プランの実施状況の点検・評価を実施した。

2. 評価区分の基準

「計画、実績」「改革プランにおける数値目標等（実績、目標）」「公立病院として今後果たすべき役割」について評価を行った。

評価は次の表のように4段階とし、それぞれの評価の基準は説明のとおりである。

評価	評価の基準
◎	計画、数値目標を大きく上回った
○	計画、数値目標をほぼ達成した
△	計画、数値目標をやや下回った
×	計画、数値目標を大きく下回った

3. 評価

資料1に掲げる次の項目について評価を実施した。

大項目である「公立病院として今後果たすべき役割」を達成するために、「嶺南医療圏・若狭地域の基幹病院として、政策的医療等の提供や病診連携の中心的役割を果たし、地域医療水準の維持、向上に努める」という中項目が策定されている。その中項目を達成するための次の8項目。

- ① 初期治療から高度特殊医療まで総合的に提供できる救急医療の提供。
- ② 生活習慣病に適切に対応する医療の提供。
- ③ 地域災害医療センターとしての医療機能の提供。
- ④ へき地医療拠点病院としての機能の提供。
- ⑤ 小児医療・産科医療の確保。
- ⑥ 研修機能の充実。
- ⑦ 看護師の養成・確保。
- ⑧ 地域医療機関との連携の推進。

次に「経費削減・抑制対策」という中項目が策定されている。その中項目を達成するための次の2項目。

- ① 給与費の抑制。
- ② 経費の削減。

次に「収入増加・確保対策」という中項目が策定されている。その中項目を達成するための次の6項目。

- ① 急性期病院として平均在院日数の短縮に努め、効率的な病床運営を行い病床利用率を高める。
- ② 亜急性期病床を8床増床し、入院収益の増収を図る。（年間 21,900千円）
- ③ 初診時特定療養費や文書料等の見直しを図る。
- ④ 診療報酬制度に的確に対応するため、研修等を実施する。
- ⑤ 良質な医療の提供と収益性の向上を図るため、急性期入院医療における診断群分類別包括評価（DPC）準備病院に平成20年度申請した。
- ⑥ 地域医療支援病院の承認が得られることにより、入院収益の増収が見込めることから承認申請に向け検討を開始した。

さらに、資料3「改革プランにおける数値目標等」の8項目。

4. 総合評価

- (1) 「初期治療から高度特殊医療まで総合的に提供できる救急医療の提供」に関連する事項として、特に「初期治療」は、「休日・祝祭日、時間外の診療体制」について、小浜市総合計画審議会による地域住民に対する「休日・祝祭日、時間外」の受診についての広報・啓蒙活動をする一方、医師会の「休日当番医制度」とも診療科、時間帯等、十分に調整連携し、地域の医療資源を有効に活用することが望まれる。

平成19年に救命救急センターを開設し、専任の救急医による救急医療は地域からの信頼も非常に高く大き

く評価される。

(2) 「生活習慣病に適切に対応する医療の提供」に関連する事項として、生活習慣病には「メタボリックシンドロームの対応も含めることが必要であり、糖尿病外来の専門医による診療が週2回ということでは十分ではなく専門医による診療体制の充実が望まれる。

(3) 「へき地医療拠点病院としての機能の提供」に関連する事項として、PET-CTの利用件数は初年度に比べて減っているようであるが、若狭地域の医療圏での唯一の基幹病院として、保険診療上の制約内で高額医療機器であるPET-CTの利用率をもっと高める努力が望まれる。

若狭地域の観光資源を活用したメディカルツーリズム等の健診事業でPRを図ることなども検討の対象とすることが考えられる。

(4) 「地域医療機関との連携の推進」に関連する事項として、紹介率の増加に向けて、さらなる努力が望まれる。地理的な条件から医療的にはほぼ独占的な状態と考えられるとしても、診療所が無い地域の存在、診療所の数が少ない、薬剤の投薬期間、患者さんが紹介元診療所に戻らない、院内での複数受診の利便性、受診していないと入院困難等の問題点が指摘された。

「病院と診療所の医師とでの二人主治医制」など、医師会との調整・協力によって、紹介率、特に逆紹介率を上げるような病診連携体制を構築することが望まれる。

- (5) 「急性期病院として平均在院日数の短縮に努め、効率的な病床運営を行い病床利用率を高める」および(7)に関連する事項として、小浜市を中心とする嶺南医療圏は、東に敦賀市、西に舞鶴市と隣接しているが、舞鶴市では病院施設が再編成されるもののそれぞれ病院があり、南で隣接する滋賀県高島市の医療施設との連携を検討することも考えられる。
- (6) 「亜急性期病床を8床増床し、入院収益の増収を図る」に関連する事項として、亜急性期病床を増床できなかったものの、現状の利用率は努力の成果であると考えられ、限りなく〇に近い△であると評価した。
- (7) 「地域医療支援病院の承認が得られることにより、入院収益の増収が見込めることから承認申請に向け検討を開始した」に関連する事項として、患者紹介率向上という大きな問題があるが、医師会と連携・調整しながら是非とも「地域医療支援病院の承認」を、病院全スタッフの目標にして努力をして頂きたい。
- (8) 「医師の異動が頻繁」「紹介外来制の撤廃」「病床利用率の低下」等が指摘されたが、現在の制度や社会情勢などの様々な事情、さらには地域の教育体制なども要因となっていると考えられるが、当院単独の努力のみならず、小浜市を中心とした行政および医師会と協力して、医師の補充と定着について対策を計画・実施することが望まれる。

- (9) 《資料 A-1》では、平成27年度に向けて医業収益などが改善していく見込みとなっているが、地域の人口動態等を加味した計画が必要であると思われる。
- (10) 嶺南医療圏・若狭医療圏の基幹病院としての役割を果たすためにも、車による交通手段は不可欠であり、外来受診患者数、病床数の規模に対応した、患者専用駐車場の拡充整備を計画どおり実施する必要がある。

平成 21 年度 杉田玄白記念公立小浜病院改革プラン評価シート

公立病院として今後果たすべき役割

嶺南医療圏・若狭地域の基幹病院として、政策的医療等の提供や病診連携の中心的役割を果たし、地域医療水準の維持、向上に努める。				
役割と計画	実績	進捗の判断	自己評価	委員会評価
① 初期治療から高度特殊医療まで総合的に提供できる救急医療の提供	平成19年10月、救命救急センター及び高度医療施設が完成し、MDCT, MRI, PET-CT, IVR-CT等の高度医療機器を整備したことにより、1次救急から3次救急までの医療を担っている。 嶺南地域唯一の救命救急センターを備えた医療機関として、平成21年度は12,540人の救急患者を受け入れており、そのうち救急車搬送患者数は1,689人、1日平均4.6人となっている。 第2種感染症指定医療機関として、新型インフルエンザ対策に取り組み、発熱外来を設置し対応した。	救急科専門医師が1名から2名に増員となり、救急への対応が向上し、地域住民の信頼度が上がった。 救急隊と担当医師との連絡が直接に取れるようになり、救急隊との連携が緊密になった。 これによって従来、京都府へ出ていた高浜町からの救急受診患者が増加し、地域医療体制が著しく向上した。 救急隊による救急病院への患者搬送時間は、全国平均で36分に対して、若狭消防組合救急隊による小浜病院への搬送時間は、24分となっている。 平成21年度の新型インフルエンザによる受診者は、1,038人であった。 平成21年11月30日～平成22年1月3日までの、休日・時間外の新型インフルエンザ患者数は287人、1日平均8.2人であった。	○	○
② 生活習慣病に適切に対応する医療の提供	健診センターにおいては、人間ドック、脳ドック、PET-CT等による健診や特定検診を行なうことで疾病の予防に努めている。	平成21年度人間ドックの健診者は679人であり、そのうち501人については医療機関への受診の必要性を指摘した。また、PET健診は、28人のうち2人、脳ドック、人間ドック+脳ドックでは106人のうち52人、特定検診では、64人のうち7人について、医療機関への受診の必要性を指摘している。	○	△

役割と計画	実績	進捗の判断	自己評価	委員会評価
③ 地域災害医療センターとしての医療機能の提供	日本赤十字社福井県支部常備救護班要員（日赤医療班）6名、初期被爆救急医療班6名、広域災害派遣医療チーム（DMAT）認定資格者が11名おり、必要な資機材の取扱訓練や補充、メンテナンスを行うとともに、地域災害あるいは広域災害が発生した際に充分な働きができるよう、各種訓練に参加し技術の研鑽に努めている。	トリアージ講習会（院内） 原子力防災初期被爆医療従事者講習会（敦賀市） 静岡県駿河湾での地震（震度6弱）に対しDMATが院内待機 実施 近畿府県合同防災訓練（坂井市） 原子力防災訓練緊急被爆医療措置訓練（美浜町） チリ地震での大津波警報によりDMATが院内待機実施 中部ブロックDMAT実働訓練等に参加している。	○	○
④ へき地医療拠点病院としての機能の提供	無医地区への巡回診療を行っており、堅海、宮川、根来（小浜市）、河内、杉山、西浦（若狭町）、上瀬、日引、音海（高浜町）の9地区に年間168回の巡回診療を実施している。 平成21年度の1回平均受診者は、8.1人であった。	無医地区への巡回診療は、交通手段の乏しい高齢化地域に診療所を設置し定期的に診療を行っており、地域医療に貢献している。	○	△
⑤ 小児医療・産科医療の確保	小児医療は3名の医師で診療体制を維持している。地域の医師会休日診療輪番制で小児科医が当番でない場合の小児救急医療を担当している。また、地域における小児療育医療を担当している。産科医療は2名の医師で診療体制を維持している。 分娩件数、平成20年度 213件 平成21年度 220件	地方において小児科医、産科医が不足するなか、それぞれ3名、2名の常勤医を確保でき地域医療に貢献している。自治体の健診業務や小児療育業務の継続、分娩件数の増加に対応するため診療体制を堅持していきたい。	○	○

役割と計画	実績	進捗の判断	自己評価	委員会評価
⑥ 研修機能の充実	<p>研修医のための研修管理委員会を設置、協力施設より外部委員7名、院内委員5名によりプログラム、行動目標、経験目標を検討している。ER研修や医局会での研修発表の機会を持っている。備品としては、パソコンを購入した。専門医師によるトリアージ研修、救急認定看護師による院内研修を実施した。</p>	<p>これまでの採用実績から、平成21年度の研修医定数は2名から4名に増員が認められた。13名の応募者より4名を採用した。また、福井大学より2名をたすきがけて受け入れた。 平成22年度の研修医の応募者数は9名であり、4名を採用予定者として選考中である。 看護部では、救急認定看護師による院内研修を行っている。 また、平成21年度は、救急救命士5名の研修を行った。平成22年度は、初回研修、再研修の救急救命士を合わせて14名の研修を予定している。</p>	○	○
⑦ 看護師の養成・確保	<p>平成2年4月より看護師養成事業として看護学院を運営している。学生数は、平成20年度82名、平成21年度82名、平成22年度89名で推移している。 平成20年度は卒業生の47.6%、平成21年度は70.6%が小浜病院組合の医療機関に就職している。 また、看護協会主催の看護師就職説明会に参加した他、看護専門学校を訪問し就職説明を行なった。</p>	<p>看護学院卒業生の約半数が、小浜病院に就職している。 看護師の確保により看護基準10：1から7：1への向上が実現できた。</p>	○	○
⑧ 地域医療機関との連携の推進	<p>若狭地域で唯一の基幹病院として他医療機関との連携を図っており、地域連携室が窓口となり紹介受診、他院紹介、情報の発信等を随時行っている。平成21年度の他院からの紹介件数は3,309件、月平均276件である。(紹介率20.6%) 他院への逆紹介件数は1,918件、紹介率は15.0%である。 院外からの画像検査の依頼件数は、CT 140件、MR 125件、RI 7件、PET-CT 71件となっている。</p>	<p>平成20年度より、紹介受診件数が3,000件を超えており、順調に増加してきている。今後、職員の接遇の向上や、待ち時間の短縮などの努力を続ける。 PET-CTの紹介状況では、県外や敦賀市からの紹介患者が増加している。</p>	△	△

経費削減・抑制対策	実績	進捗の判断	自己評価	委員会評価																				
<p>① 給与費の抑制</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務委託・機械化することにより、給与費の抑制を図る。 医師・看護師を除く職種については、原則として増員しない。 	<p>給与費が69,000千円減少したが、入院収益が減少したことにより対医業収益比が0.8%悪化した。</p> <table border="1" data-bbox="528 467 1184 652"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成20年4月</th> <th>平成21年4月</th> <th>平成22年4月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>41人(4)</td> <td>38人(6)</td> <td>43人(7)</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>220人(54)</td> <td>230人(66)</td> <td>230人(68)</td> </tr> <tr> <td>他職員</td> <td>166人(25)</td> <td>166人(32)</td> <td>167人(29)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>427人(83)</td> <td>434人(104)</td> <td>440人(104)</td> </tr> </tbody> </table> <p>() 非常勤職員数を別掲</p>		平成20年4月	平成21年4月	平成22年4月	医師	41人(4)	38人(6)	43人(7)	看護師	220人(54)	230人(66)	230人(68)	他職員	166人(25)	166人(32)	167人(29)	合計	427人(83)	434人(104)	440人(104)	<p>医事課レセプト点検業務を機械化することにより年間3,146千円の削減を図った。</p>	○	○
	平成20年4月	平成21年4月	平成22年4月																					
医師	41人(4)	38人(6)	43人(7)																					
看護師	220人(54)	230人(66)	230人(68)																					
他職員	166人(25)	166人(32)	167人(29)																					
合計	427人(83)	434人(104)	440人(104)																					
<p>② 経費の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療材料の購入は「診療材料検討委員会」で充分審議し、安価な材料に変更可能なものは変更する。また、物品の一括管理（SPD）の実施により診療材料等を定数管理しているが使用状況の確認を一層強化し、実績の2%削減を目指す。薬品費の削減を図る。 高度医療施設整備事業（第3期工事）の工事費および医療機器購入については、出来るだけ事業費の削減を図る。 	<p>診療材料は、保険償還材料を中心に委員会で検討し、SPD導入により在庫が減少した。材料費の対医業収益比率は、改革プランでは24%であったが、実績では23.5%であった。</p> <p>平成21年度では、第3期工事を実施しなかった。</p>	<p>診療部との検討を重ね、同等品についてはメーカーを変更し安価なものを購入、年間20,000千円の削減を見込んでいる。又、使用状況の確認を一層強化していく。</p> <p>医薬品の後発品は全体の8.3%を目指す。後発品の採用を増やすことにより、年間約20,000千円の薬品費の削減をはかる。</p> <p>建築、電気、機械工事において、一般競争入札により支出を抑えた。、今後予定している医療機器においても、診療部との協議を重ね価格交渉にあたる。</p>	○	○																				

収入増加・確保対策	実績	進捗の判断	自己評価	委員会評価
① 急性期病院として平均在院日数の短縮に努め、効率的な病床運営を行い病床利用率を高める。	<p>一般病床平均在院日数 平成20年度 16.8日 平成21年度 17.0日</p> <p>病床利用率は、平成19年度の増床により低下したが、徐々に回復しつつある。平成21年度は医師の減により当初の目標に達しなかった。療養病床、亜急性期病床、介護老人施設等の連携により、一般病床の効率を高め、平成21年8月より一般病棟入院基本料を10：1から7：1へランクを上げた。</p>	<p>看護基準のアップにより看護の質が向上し、1人1日当りの入院基本料が2,550円アップした。</p> <p>平成21年8月～22年3月の一般病床入院患者数は、41,704人であったことから、106,345,200円の増収となった。</p>	△	△
② 亜急性期病床を8床増床し、入院収益の増収を図る。(年間 21,900千円)	<p>現在、亜急性期病床20床で運用し、1日平均入院患者数 17.7人、平均稼働率 88.5%となっている。</p>	<p>病床の運用状況により、亜急性期病床の増床はできなかったが、今後患者の状況により検討していく。</p>	△	△
③ 初診時特定療養費や文書料等の見直しを図る。	<p>産科医療補償制度に伴う分娩料の見直しを図った。</p> <p>死体検案料の見直しを図った。</p>	<p>平成21年度分娩件数 220件 6,600,000円の増収となった。</p> <p>平成21年度死体検案件数 23件 18,670円の増収となった。</p>	○	○

収入増加・確保対策	実績	進捗の判断	自己評価	委員会評価
④ 診療報酬制度に的確に対応するため、研修等を実施する。	<p>診療報酬改正研修会参加状況 経営コンサルタント会社 3名参加 民間医療事務会社主催 4名参加 日本病院会福井支部主催 4名参加 福井県医師会主催 4名参加 日本病院会主催 4名参加 日本医療事務協会主催 2名参加 近畿厚生局主催 3名参加 全国自治体病院協議会主催 1名参加</p>	<p>施設基準の申請や手術、手技の把握等、新たな診療報酬制度に的確に対応することができた。 医師事務作業補助体制加算 100:1→75:1 急性期看護補助体制加算 新規申請 慢性期病棟等退院調整加算 1 新規申請 急性期病棟等退院調整加算 1 新規申請 HPV核酸同定検査 新規申請 CT撮影及びMR撮影 点数改正により申請 運動器リハビリテーション料(I) 区分変更 透析液水質確保加算 新規申請</p>	○	○
⑤ 良質な医療の提供と収益性の向上を図るため、急性期入院医療における診断群分類別包括評価(DPC)準備病院に平成20年度申請した。	<p>準備病院として平成20年7月から12月、平成21年7月から12月の12ヶ月分の調査資料を作成し厚労省へ提出するとともに、資料分析を行い平成22年度からの導入に対して検討を行った。</p>	<p>各疾病ごとの診療内容を分析し、各科で検討を行うことで、22年7月からのDPC請求開始に対応することができた。 DPCを採用することにより、診療報酬出来高による収入と比較して、年間3%~4%の増収が見込まれる。</p>	○	○
⑥ 地域医療支援病院の承認が得られることにより、入院収益の増収が見込めることから承認申請に向け検討を開始した。	<p>地域連携室を中心に、病病、病診連携に努めているが、地域的な条件から紹介率、逆紹介率において承認基準を満たしていない。</p>	<p>救命救急センターの開設など、地域の中核となる医療機関であり承認条件の緩和を要望していく。</p>	×	×

小浜病院の役割と今後の目標に関する資料

1) 初期治療から高度特殊医療まで総合的に提供できる救急医療の提供

(単位:人)

		20年度	21年度 プラン	21年度 実績	22年度 プラン	22年度 予算
1日平均 患者数	外来	800.5	810	792.4	810	810
	入院	319.2	350	323.2	370	345
1日平均 救急患者	外来	24.2	-	31.2	-	35
	入院	4.2	-	3.2	-	6
1日平均 救急患者	時間外	23.2	-	29.2	-	33
	救急車	4.8	-	4.6	-	5

救命救急センター 市町別患者数

(単位:人)

		平成19年度 (平成19年11月～平成20年3月)	平成20年度 (平成20年4月～平成21年3月)	平成21年度 (平成21年4月～平成22年3月)
小浜市		2,850	7,136	8,434
若狭町	旧上中町	368	906	1,340
	旧三方町	106	258	284
おおい町	旧名田庄村	181	428	473
	旧大飯町	167	425	502
美浜町		13	53	68
高浜町		113	357	470
その他(県内外)		203	816	969
合計		4,001	10,379	12,540

※ 救命救急センター患者数は、平成21年度は20年度と比較し20.8%の増加が見られる。
構成市町以外の高浜町で31.7%、その他(県内外)の患者数も18.8%増

※ 若狭地域における救急搬送状況は、平成19年から平成21年までの総人数は大きな変化は見られないが、当病院への搬送比率は、平成19年 73.4%、平成20年 78.3%、平成21年78.9%と増加している。

若狭地域における救急搬送状況について

平成19年

(単位:人)

搬送先	死亡	重症	中等症	軽症	合計
若狭消防組合管内	44	467	476	956	1,432
うち小浜病院	40	398	327	819	1,146
若狭消防組合管外	0	87	66	61	127
舞鶴共済病院	0	39	25	31	56
舞鶴医療センター	0	28	33	29	62
舞鶴赤十字病院	0	0	0	0	0
舞鶴市民病院	0	0	0	0	0
	44	554	542	1,017	1,559

平成20年

(単位:人)

搬送先	死亡	重症	中等症	軽症	合計
若狭消防組合管内	76	405	507	1,009	1,516
うち小浜病院	65	354	382	889	1,271
若狭消防組合管外	0	79	51	32	83
舞鶴共済病院	0	37	28	15	43
舞鶴医療センター	0	17	16	16	32
舞鶴赤十字病院	0	0	3	1	4
舞鶴市民病院	0	0	0	0	0
	76	484	558	1,041	1,599

平成21年

(単位:人)

搬送先	死亡	重症	中等症	軽症	合計
若狭消防組合管内	45	373	516	1,028	1,544
うち小浜病院	33	305	398	922	1,320
若狭消防組合管外	0	61	37	41	78
舞鶴共済病院	0	35	13	17	30
舞鶴医療センター	0	12	11	21	32
舞鶴赤十字病院	0	0	0	0	0
舞鶴市民病院	0	0	0	0	0
	45	434	553	1,069	1,622

2) 生活習慣病に適切に対応する医療の提供

(単位:人)

	平成20年度		平成21年度	
	受診者	要医療指摘者数	受診者	要医療指摘者数
人間ドック	674	434	679	501
PET健診	47	1	28	2
脳ドック	6	0	67	26
人間ドック+脳ドック	-	-	39	26
人間ドック+PET健診	-	-	9	9
特定健診	125	15	64	7
婦人科癌検診	29	2	22	0

3) 地域災害医療センターとしての医療機能の提供

「評価シート記載の通り」

4) へき地医療拠点病院としての機能の提供

(単位:人)

	20年度	21年度	22年度
巡回診療日数	168	168	168
1回平均患者数	9.8	8.1	8.9

年度別へき地診療実人数

年度	堅海	上根来 (上根来・下根来)	宮川	音海	日引	上瀬	奥杉山	河内	西浦 (常神・神子)	合計
	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数	延人数		
17	384	233	128	198	34	62	56	46	656	1,797
18	363	252	124	159	23	60	41	42	595	1,659
19	381	233	122	146	30	56	33	40	604	1,645
20	407	211	140	120	30	50	36	46	598	1,638
21	393	222	114	102	24	45	26	38	395	1,359
合計	1,928	1,151	628	725	141	273	192	212	2,848	8,098

5) 小児医療・産科医療の確保

(単位:人)

			20年度	21年度	22年度	
1日平均患者数	小児	外来	56.6	68.5	72	
		入院	3.8	3.9	5	
	産科	外来	32.1	30.2	31	
			入院	8.7	7.9	8
分娩件数	正 常		173	162	171	
	異 常		9	14	14	
	帝王切開		31	44	44	
	計		213	220	229	

6) 研修機能の充実

学会・研修会等への出席

(単位:人)

	20年度	21年度	22年度
医 師	194	160	176
看 護 師	180	158	174
医療技術員	81	57	62
事 務 職 他	238	231	235

臨床研修医の状況

(単位:人)

		20年度	21年度	22年度
病 院 単 独		2	4	5
大学との たすき掛	医科	1	2	1
	歯科	1	0	0
合 計		4	6	6

救急救命士の研修状況

(単位:人)

	20年度	21年度	22年度
救急救命士の研修	6	5	14

7) 看護師の養成・確保

(単位:人)

		20年度	21年度	22年度
養成所入学者		33	25	33
卒業 者	小浜病院	9	11	16
	その他	12	6	6
	計	21	17	22
看護 師	新採用者	19	21	17
	退職者	14	21	5
	増減	5	0	12

8) 地域医療機関との連携の推進

平成21年度 医療機関別

紹介患者件数

歯科大下医院	20
福井済生会病院	21
浅妻内科	22
藤村クリニック	22
関根医院	23
敦賀温泉病院	23
大下第3歯科医院	29
舞鶴医療センター	30
市立敦賀病院	31
中山クリニック	36
京都大学医学部附属病院	41
中名田診療所	43
福井大学医学部附属病院	44
木村病院	47
ふくもと小児科医院	52
嶺南病院	57
村上眼科医院	81
レイクヒルズ美方病院	88
田中病院	93
西津診療所	96
高浜病院	98
吉井医院	99
いちせクリニック	129
山手医院	136
なごみ	147
小津外科医院	150
千葉医院	187
舞鶴共済病院	193
上中病院	210
名田庄診療所	214
田中整形外科医院	236
小計	2,698
その他(19件未満)	611
総計	3,309

逆紹介患者件数

敦賀温泉病院	10
いちせクリニック	11
岐阜大学医学部附属病	11
大下第3歯科医院	13
舞鶴医療センター	13
福井循環器病院	13
市立敦賀病院	14
中村クリニック	15
嶺南病院	19
西津診療所	23
福井県立病院	23
村上眼科医院	26
木村医院	27
福井済生会病院	27
中名田診療所	31
高浜病院	33
田中整形外科医院	41
レイクヒルズ美方病院	41
小津外科医院	53
なごみ	53
吉井医院	55
山手医院	60
田中病院	64
福井大学医学部附属病	66
京都大学医学部附属病	74
上中病院	80
千葉医院	81
名田庄診療所	98
舞鶴共済病院	173
小計	1,248
その他(9件未満)	670
総計	1,918

改革プランにおける数値目標等（実績・目標）

（単位：百万円）

収支	平成20年度 決算	平成21年度 プラン A	平成21年度決算 B	平成21年度決算 -プラン (B-A)	平成22年度 プラン (税込)
病院事業収益	5,903	7,018	6,826	▲ 192	6,439
うち外来収益	1,575	1,588	1,614	26	1,588
うち入院収益	3,329	3,705	3,423	▲ 282	3,935
うち医業外収益	702	1,421	1,425	4	601
病院事業費用	6,891	7,383	7,049	▲ 334	7,211
うち給与費	3,066	3,220	3,151	▲ 69	3,259
うち材料費	1,238	1,344	1,267	▲ 77	1,381
うち経費	629	684	693	9	718
うち減価償却費等	883	811	820	9	755
純損益	▲ 988	▲ 365	▲ 223	142	▲ 772
累積欠損金	2,162	2,525	2,385	▲ 140	3,297
資金収支	▲ 105	446	597	151	▲ 17
不良債務	—	—	—	—	—

財務に係る数値目標	平成20年度 決算	平成21年度 プラン A	平成21年度決算 B	平成21年度決算 -プラン (B-A)	平成22年度 プラン (税込)	自己評価	評価
経常収支比率	85.7	95.1	96.8	1.7	89.3	○	○
(減価償却費等を除く)	98.3	106.8	109.6	2.8	99.7	○	○
医業収支比率	83.4	84.4	84.3	▲ 0.1	87.1	△	△
職員給与費比率	59.0	57.5	58.3	0.8	55.8	○	○
病床利用率 (一般)	69.4	77.6	69.2	▲ 8.4	82.7	×	×
病床利用率 (療養)	72.3	80.0	76.4	▲ 3.6	80.0	△	△
病床利用率 (全体)	70.9	77.8	71.8	▲ 6.0	82.2	△	△
外来患者数 (1日平均)	801	810	792	▲ 18.0	810	×	×

公立病院改革プランの概要

団 体 名	公立小浜病院組合	
プ ラ ン の 名 称	杉田玄白記念公立小浜病院改革プラン	
策 定 日	平成21年3月26日	
対 象 期 間	平成21年度 ～ 平成27年度	
病 院 の 現 状	病 院 名	杉田玄白記念公立小浜病院
	所 在 地	福井県小浜市大手町2番2号
	病 床 数	456床（一般290床 結核8床 感染2床 療養50床 精神100床 ドック6床）
	診 療 科 目	内科・呼吸器科・循環器科・外科・整外・脳外・産科・児科・耳科・眼科・泌科・皮科・放科 麻科・心血外科・形外・精科・神科・リハ科・歯口科
公立病院として今後果たすべき役割（概要）	<p>嶺南医療圏・若狭地域の基幹病院として、政策的医療等の提供や病診連携の中心的役割を果たし、地域医療水準の維持、向上に努める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 初期治療から高度特殊医療まで総合的に提供できる救急医療の提供 ② 生活習慣病に適切に対応する医療の提供 ③ 地域災害医療センターとしての医療機能の提供 ④ へき地医療拠点病院としての機能の提供 ⑤ 小児医療・産科医療の確保 ⑥ 研修機能の充実 ⑦ 看護師の養成・確保 ⑧ 地域医療機関との連携の推進 	

一般会計における経費負担の考え方（繰出基準の概要）		<ul style="list-style-type: none"> ・ 1床あたりの普通交付税額相当分 ・ 救命救急センター運営に係る特別交付税額相当分 ・ 学生1人あたりの普通交付税額相当分 ・ 企業債元利償還額の普通交付税額相当分 										
経営効率化に係る計画	財務に係る数値目標（主なもの）	19年度実績	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	備考	
	経常収支比率	91.0%	85.7%	95.1%	89.3%	89.6%	93.6%	96.3%	99.3%	100.6%		
	（減価償却費を除く）	96.2%	98.3%	106.8%	99.7%	100.1%	104.0%	106.4%	108.1%	109.1%		
	医業収益比率	88.3%	81.7%	84.4%	87.1%	89.0%	91.9%	92.8%	94.7%	95.3%		
	（減価償却費を除く）	93.9%	95.0%	96.2%	98.2%	100.6%	103.1%	103.3%	103.6%	103.9%		
	職員給与費比率	60.5%	59.3%	57.5%	55.8%	54.5%	53.6%	53.6%	53.6%	53.6%	53.5%	
	材料費比率	24.9%	25.3%	24.0%	23.7%	23.7%	23.5%	23.3%	23.1%	22.9%		
	経費	11.9%	12.6%	12.2%	12.3%	12.3%	12.3%	12.3%	12.3%	12.3%	12.3%	
	病床利用率	73.0%	71.1%	77.8%	82.2%	85.6%	86.7%	86.7%	86.7%	86.7%	86.7%	
上記目標数値設定の考え方	支出においては、現金支出を伴わない高額の「減価償却費」等が含まれており、平成26年度までの黒字化は困難である。（経常黒字化の目標年度：平成27年度）											

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会 委員名簿

区 分	氏 名	所属団体・役職名
委員長	白髪 昌世	広島国際大学医療福祉学部医療経営学科教授
委 員	中塚 安治	元小浜市副市長
委 員	木村 浩三	小浜医師会 会長
委 員	中西 武司	小浜市民生部長
委 員	宮脇 美恵子	小浜市連合婦人会 会長

杉田玄白記念公立小浜病院評価委員会 開催日

平成22年10月7日（木） 午後2時より 杉田玄白記念公立小浜病院 9階中会議室